

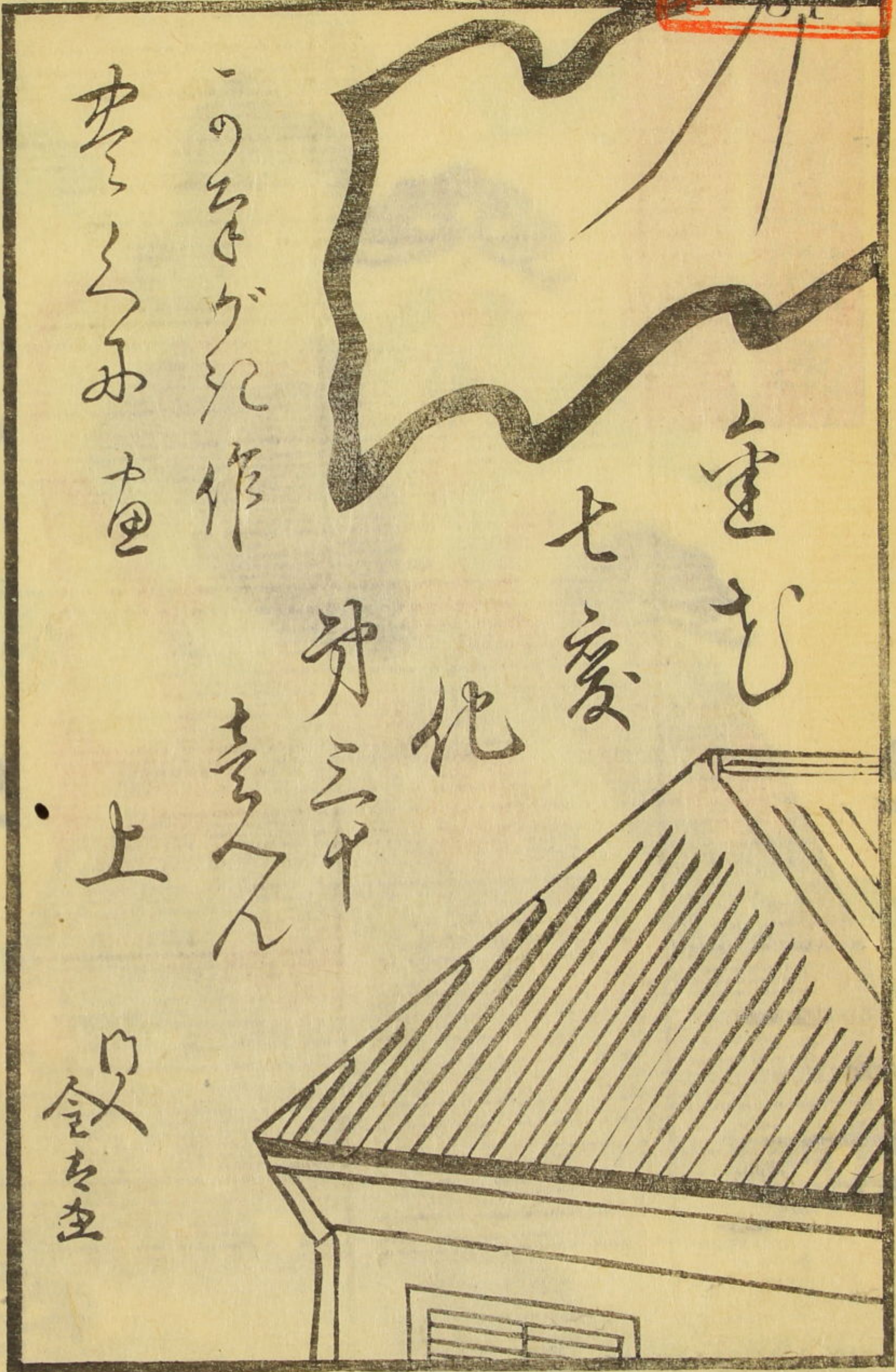
假名垣魯文作  
歌川豊國画

上

~ 13  
3689  
31



門へ13  
 號 3689  
 巻 31



金花七變化世編

序言

近來西洋佛蘭西國より究理幾  
 明世と云写真鏡の奇業我神洲

も傳習て世の流行の第一たりされ

へ写真家の繁盛ある人の横山松三郎

實入の内田代地西よ大金北庭筑波。互ふ競ふ手練の紙写。

ガラスの焼けぬ曇へあれど顔はぬ日、あいつのちと聴取傍

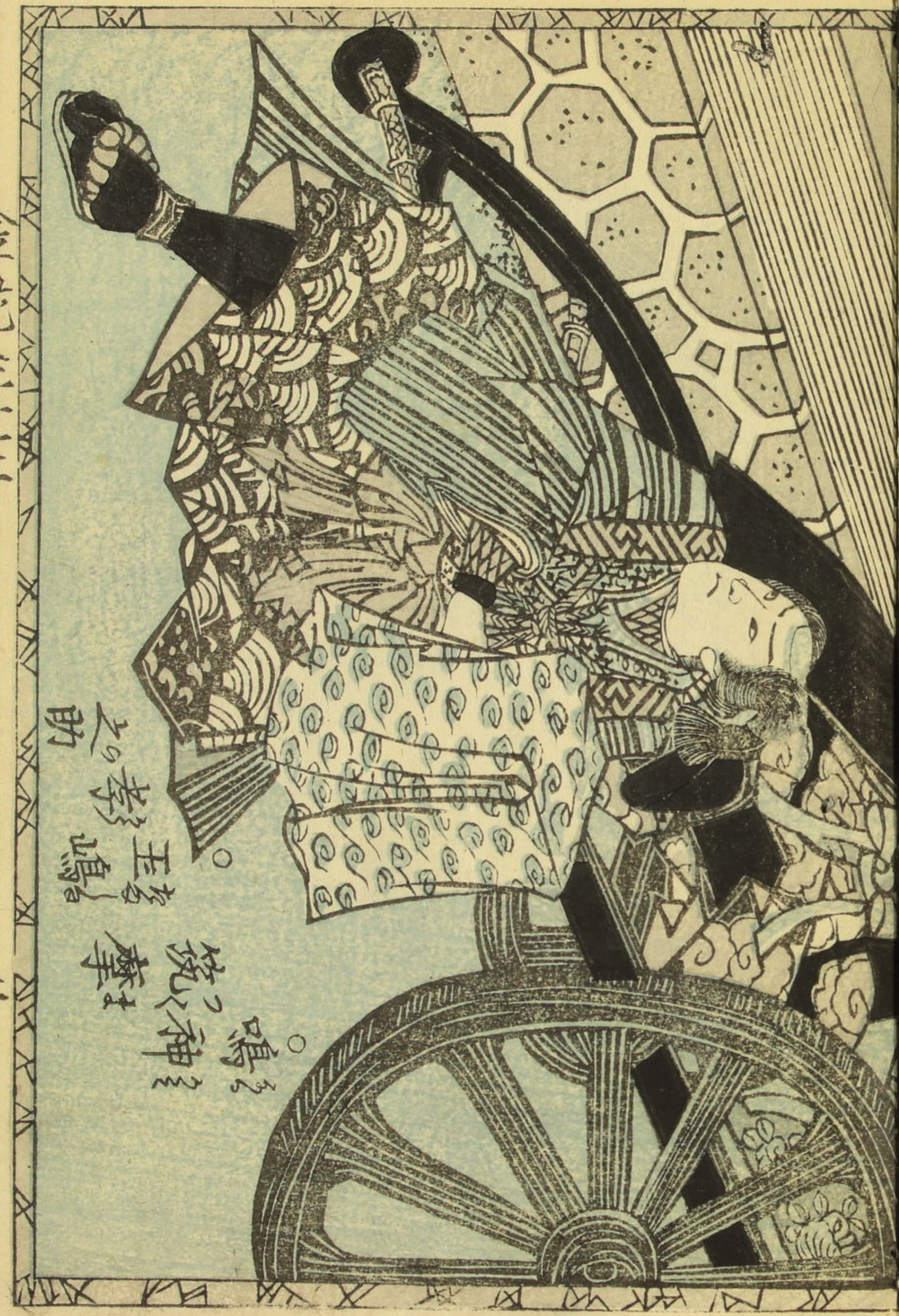
聞復写洋冊に似たる合巻の趣向、狭加も流行の請賣

せして利得る為ぞ

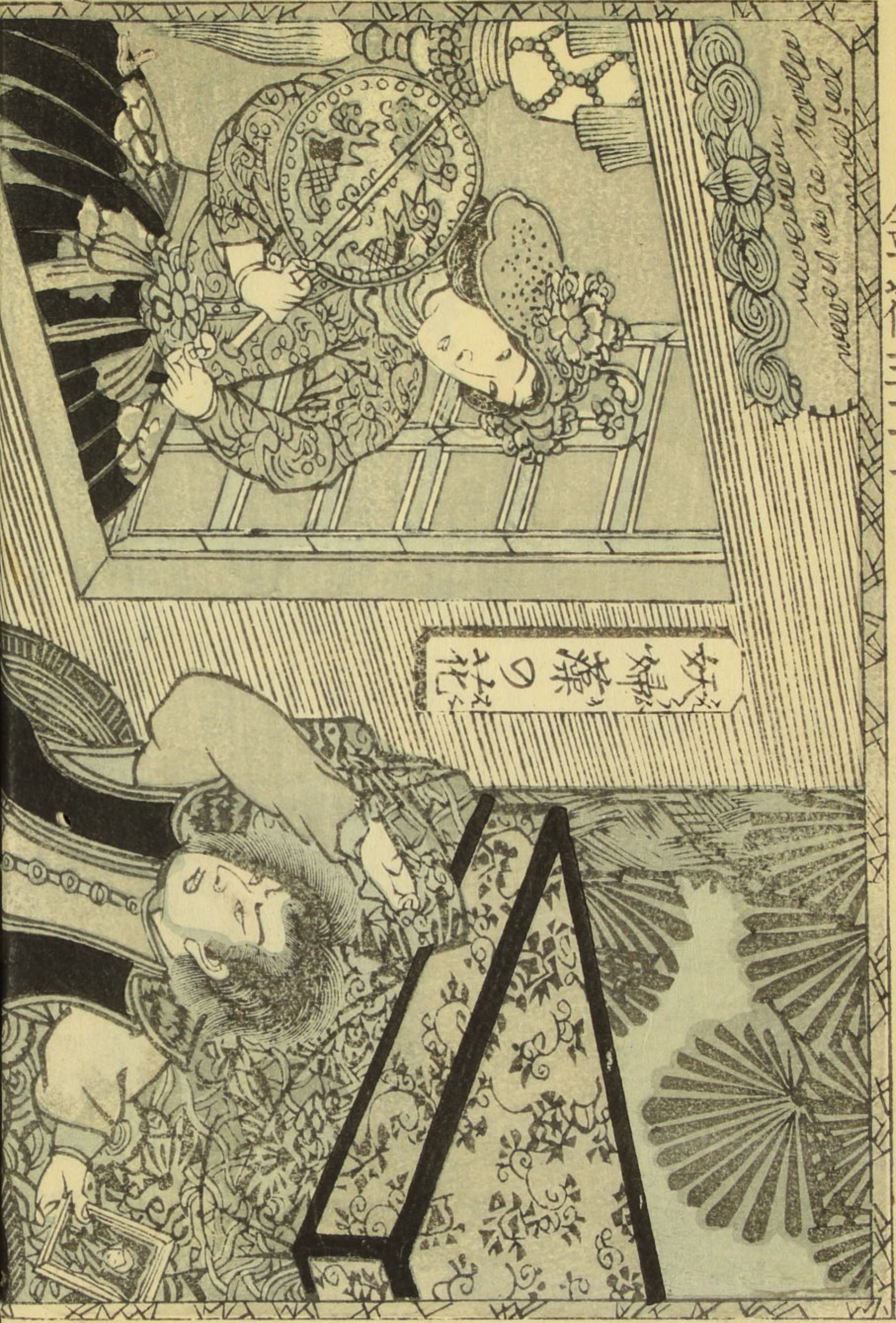
庚午季秋

假名垣魯文漫記





鳴神  
筑摩  
王鳥  
之助



妖婦  
操之花

Illustration of a woman in a kimono, possibly a deity or a character from a story, with a large circular object.

五三三

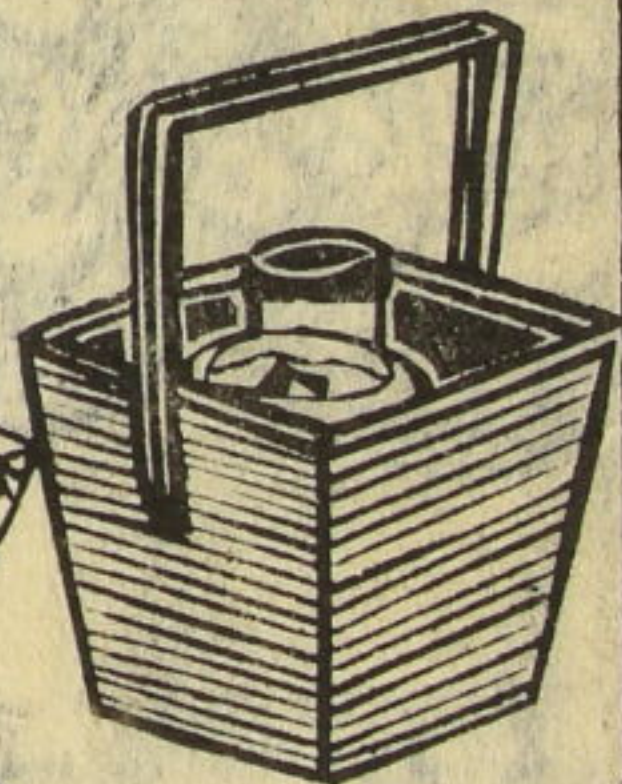
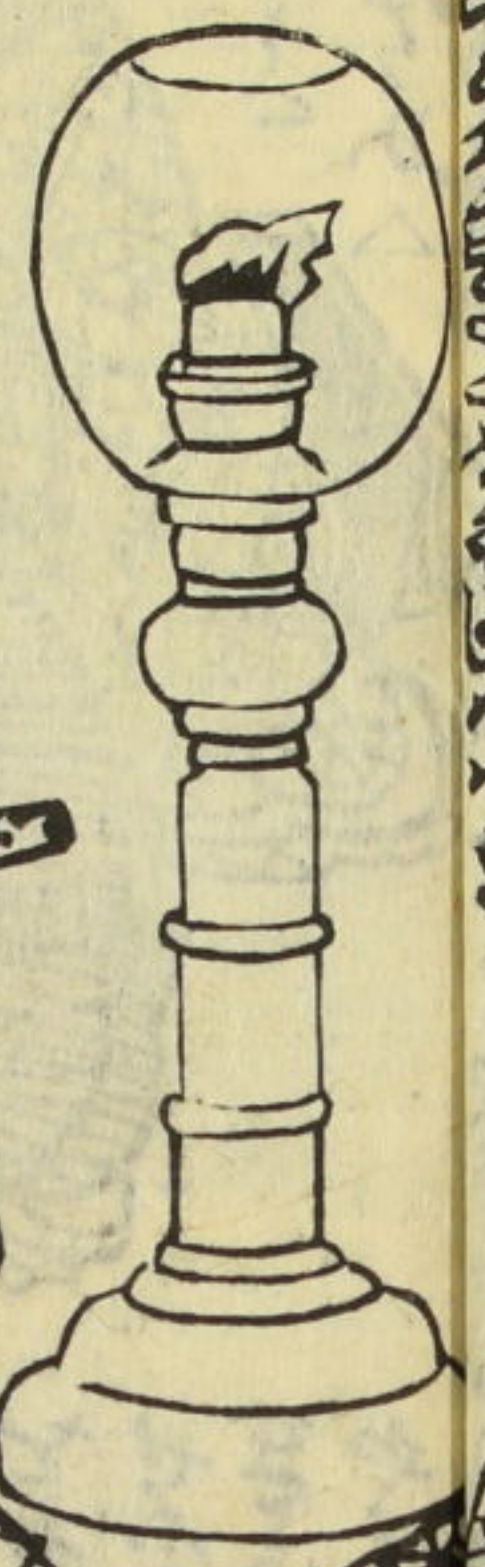




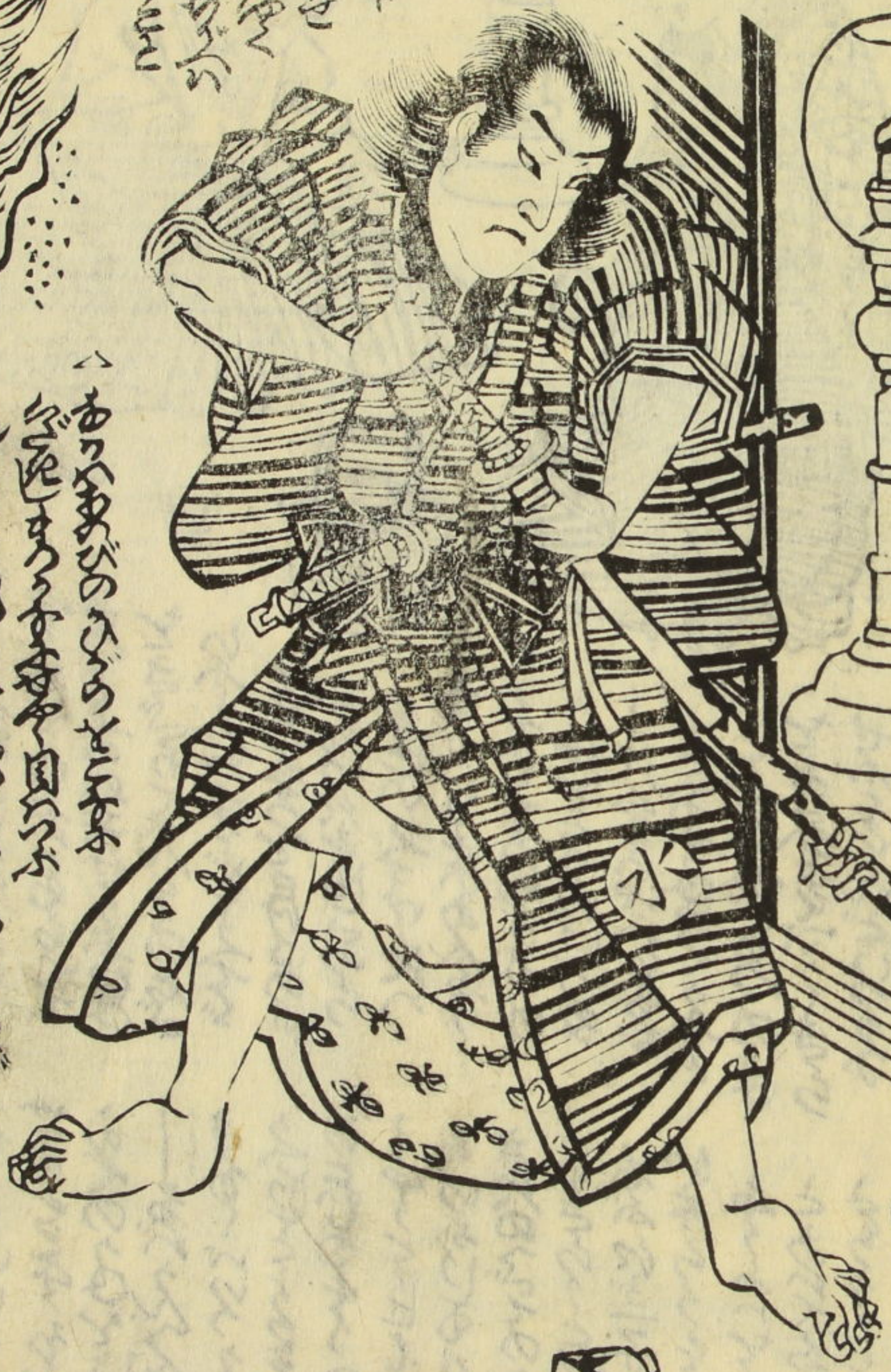


Handwritten text in the top right corner of the right page, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in the top middle of the right page, continuing the cursive script.



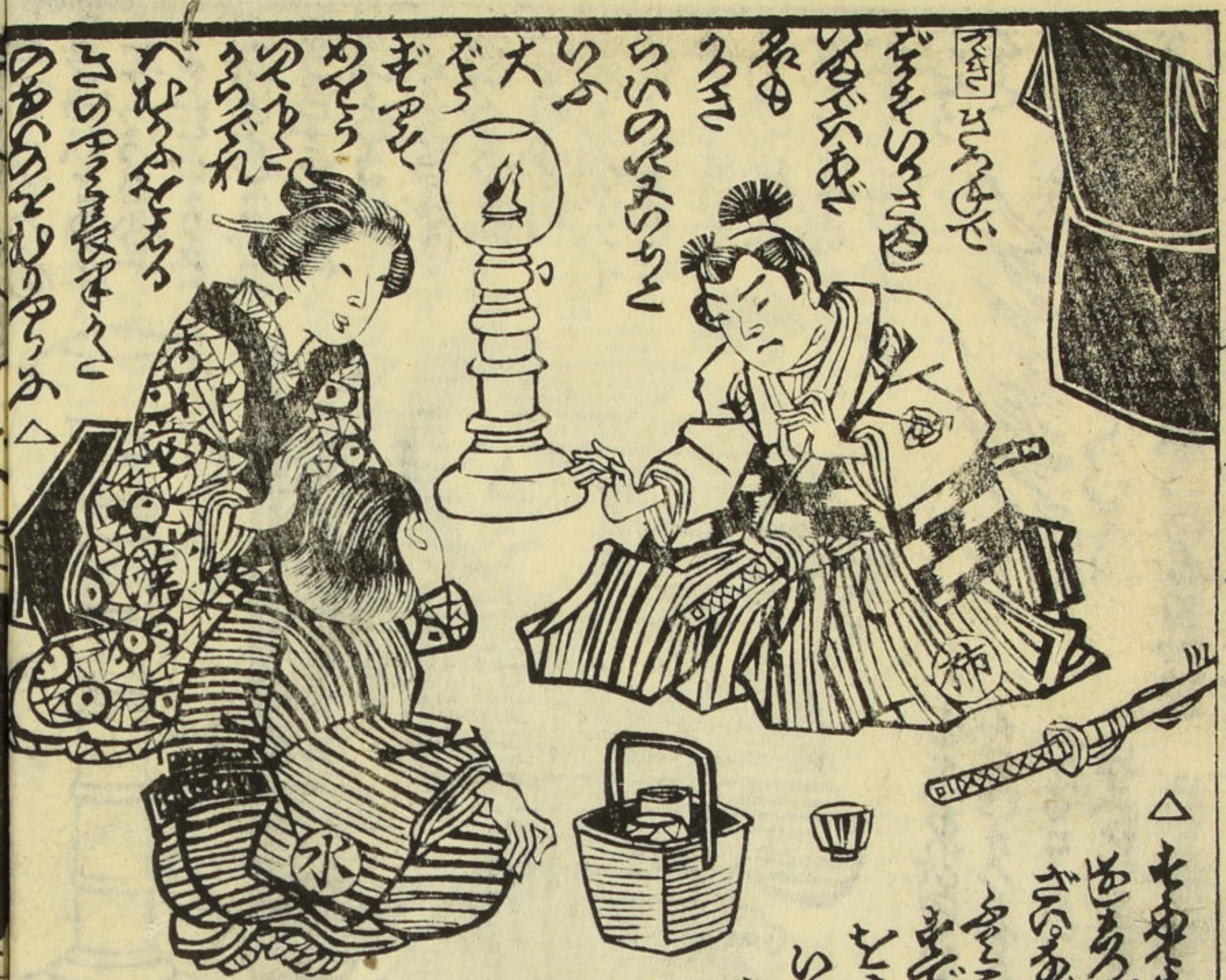
Handwritten text in the top left corner of the left page, consisting of several lines of cursive script.



Handwritten text in the bottom left corner of the left page, including a small box at the end.

Vertical handwritten text on the far left edge of the left page.

A small character or mark at the bottom left of the page.



Handwritten text in the upper part of the right page, including the name '金太郎' (Kintaro) and other characters.

Main body of handwritten text on the right page, arranged in vertical columns.

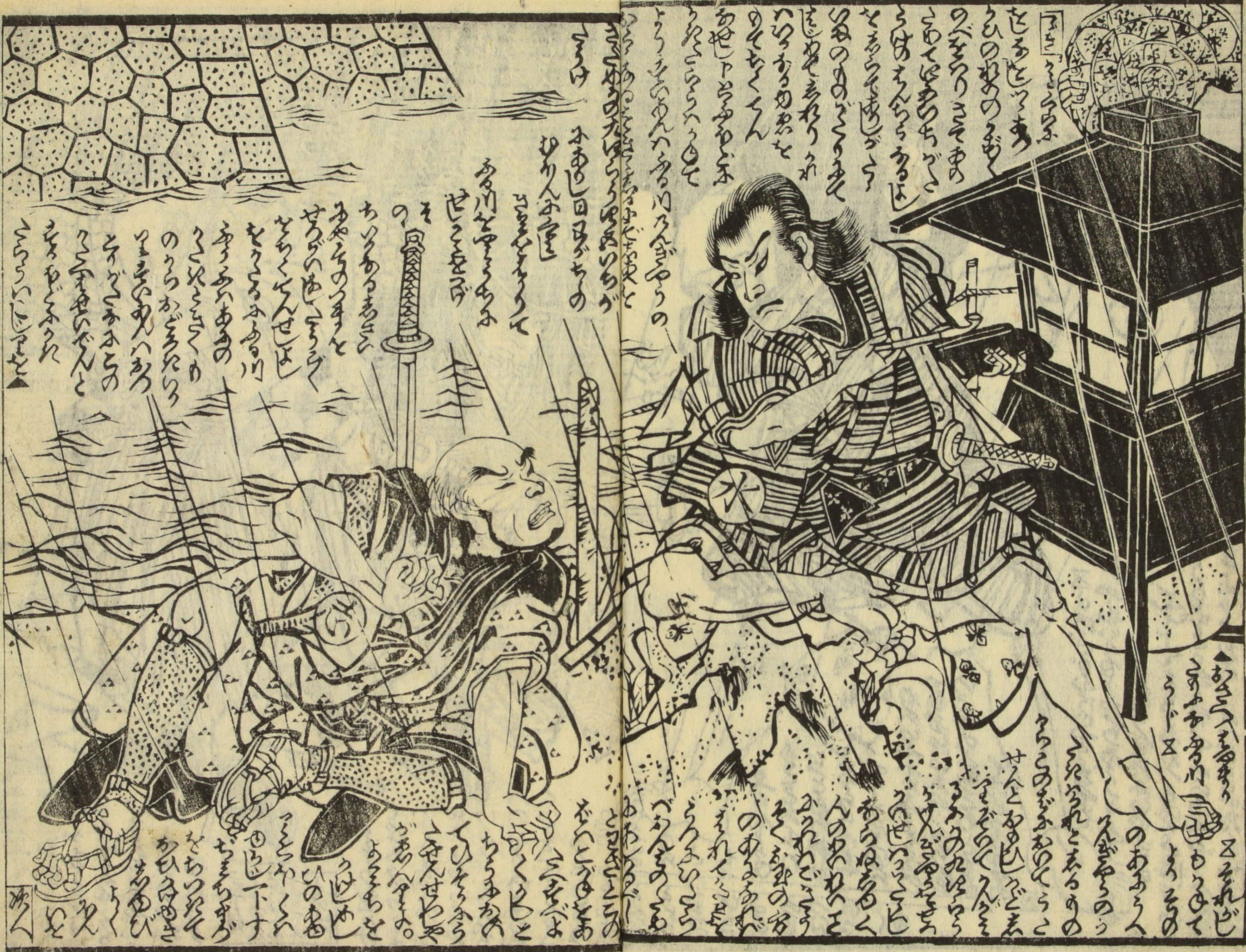


Handwritten text in the upper part of the left page.

Handwritten text at the bottom of the left page.







五十七三十一上

九



そのあからをききあがり  
 あつたふらしるるのけ  
 けきあつたふらしるるのけ  
 けきあつたふらしるるのけ

あんの  
 けきあつたふらしるるのけ  
 けきあつたふらしるるのけ  
 けきあつたふらしるるのけ

あんの  
 けきあつたふらしるるのけ  
 けきあつたふらしるるのけ  
 けきあつたふらしるるのけ

三丁目  
 けきあつたふらしるるのけ  
 けきあつたふらしるるのけ  
 けきあつたふらしるるのけ

あんの  
 けきあつたふらしるるのけ  
 けきあつたふらしるるのけ  
 けきあつたふらしるるのけ

あんの  
 けきあつたふらしるるのけ  
 けきあつたふらしるるのけ  
 けきあつたふらしるるのけ



假名垣魯文編次一陽齋 曲豆國画

浅草刈十社縁起

初編 穂彦作  
追編 國貞画  
出版

水製丁子油

日本橋通十軒店  
繪双紙

水鏡山鳥奇談

四編 秀賀作  
五編 國周画

武藏屋勝之助

蓬萊嶋臺  
延壽盆

傀儡師

三編 魯文作  
四編 國綱画

花の御所九重日記

初編 秀賀作  
追編 國貞画  
出版

折丁子の神和漢のめりし  
第廿七卷 奇談 諸侯の  
事ありし 諸君一齊に家様由女  
中様方肝委り 承り 承り  
さのこは 諸君 諸君  
細あり 委り 承り 承り

全

地本雙紙問屋

金松堂

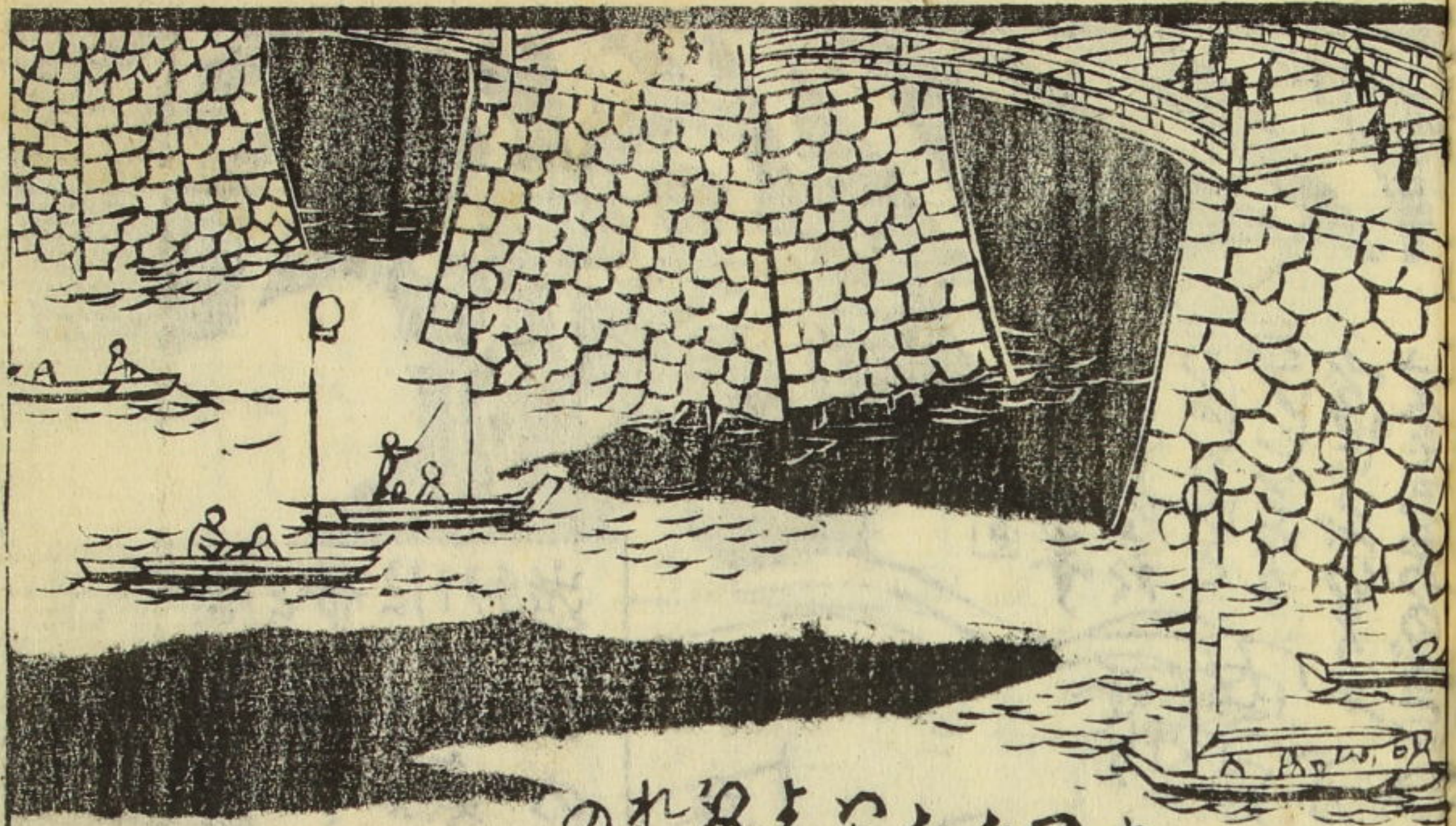
横山町三十目

辻問屋文助梓

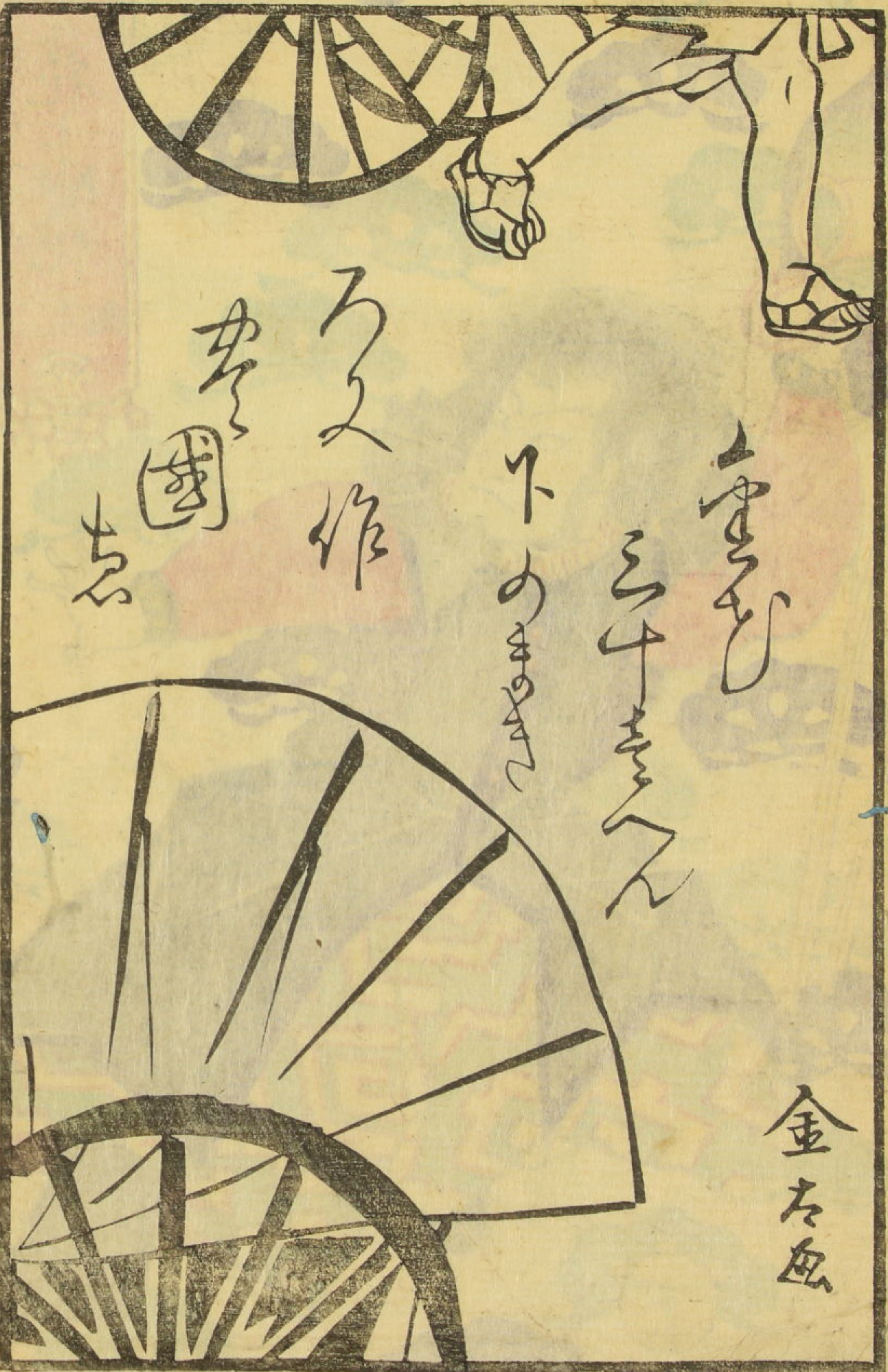


金花七変化  
編士三





三  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百



考  
 乃  
 又  
 作  
 考  
 國  
 考

下  
 考  
 考  
 考  
 考

金右風

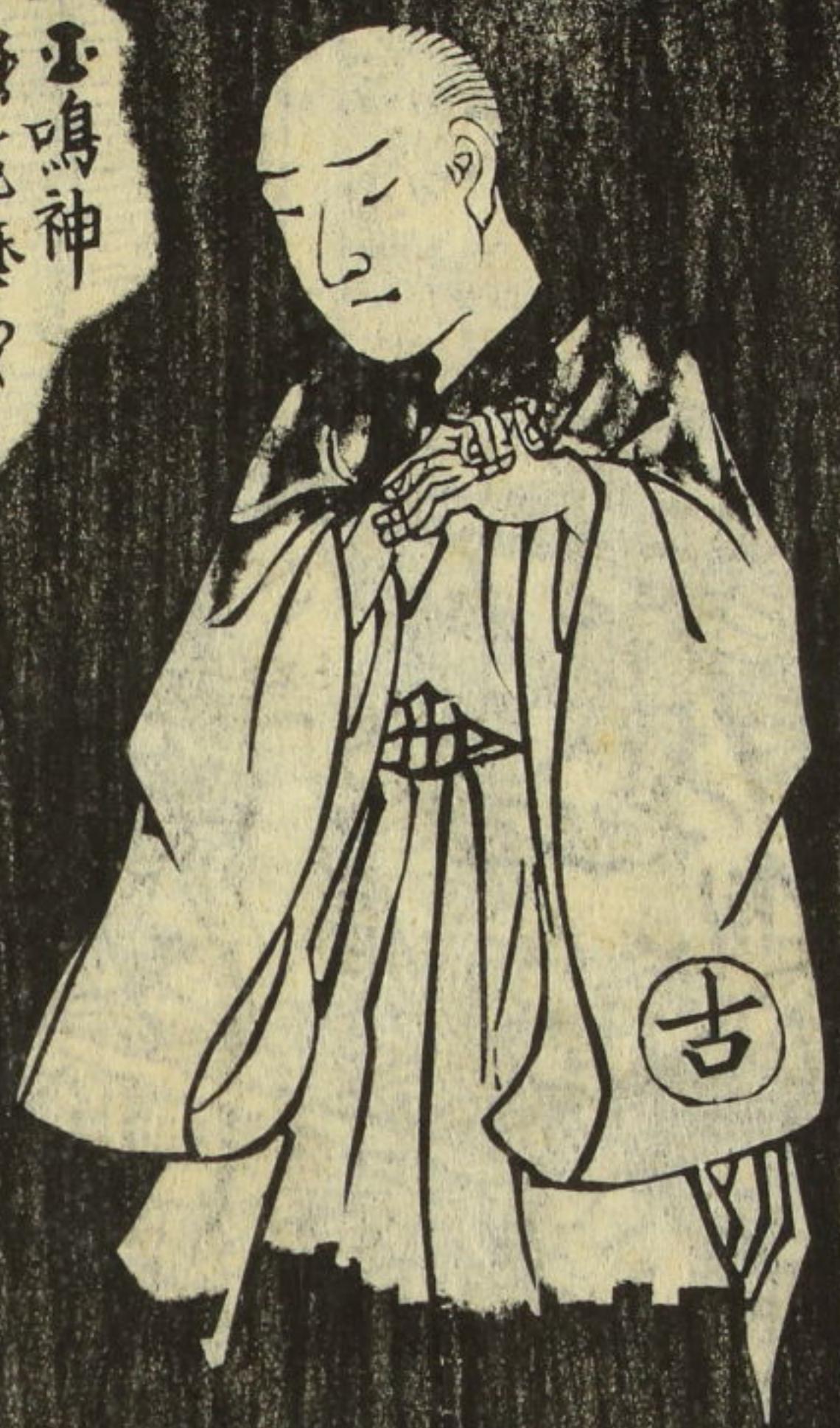






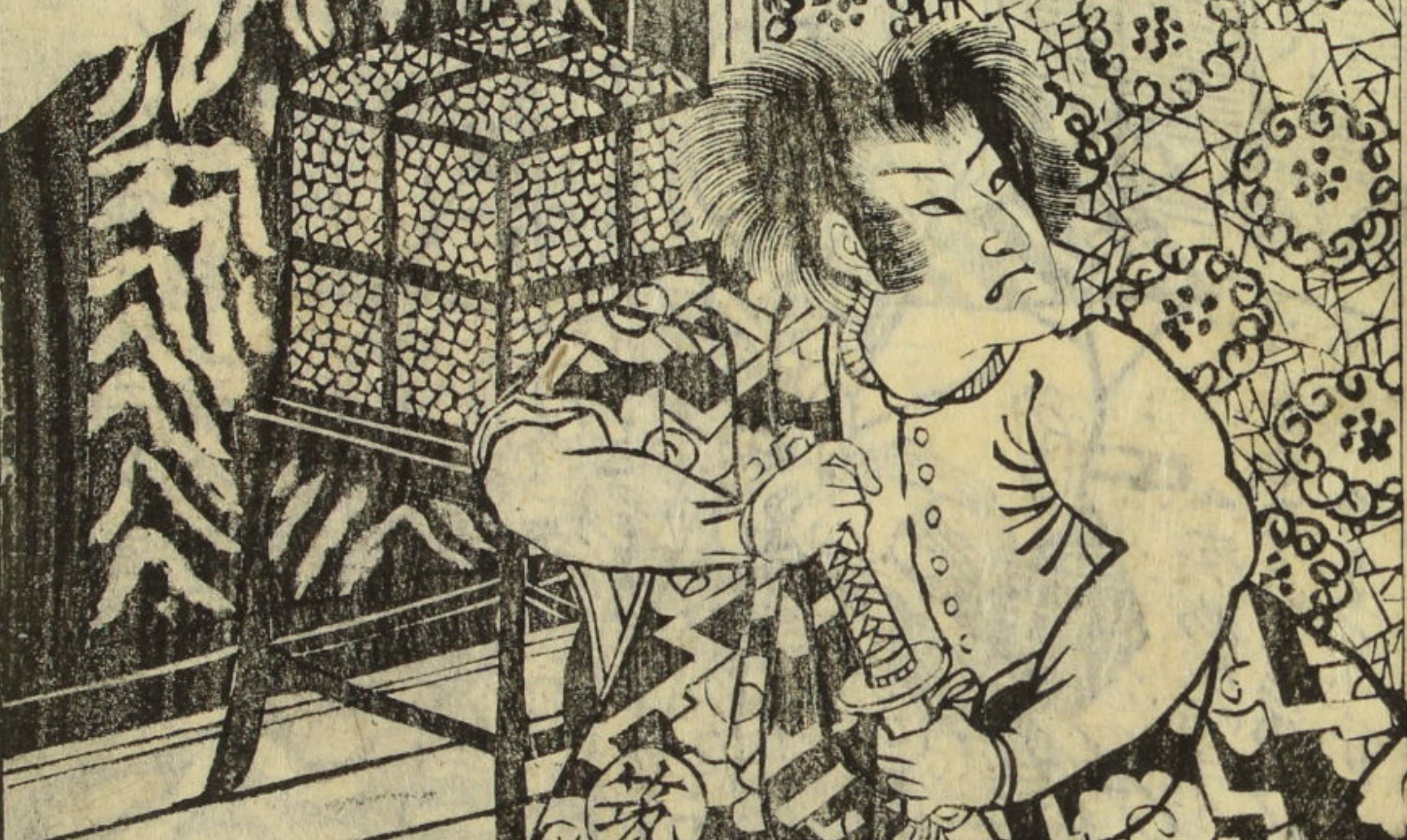


玉鳴神  
鐘筑摩和と



玉鳴神  
鐘筑摩和と

玉鳴神  
鐘筑摩和と



此場の  
繪説  
然解

玉鳴神  
鐘筑摩和と



義弘朝臣  
酒色不流り  
悪灵怪異  
再び鐘の中  
小顯れら圖

國中分んをなす色に  
いとの目とらまき  
そののまきまきまき  
厚きあがもまみ  
色んのかまき  
かひりやん  
さかどあ  
らひまき  
理小か  
りてら

○かまきまき  
べつめいを厚實  
きりのまき  
まき  
まき

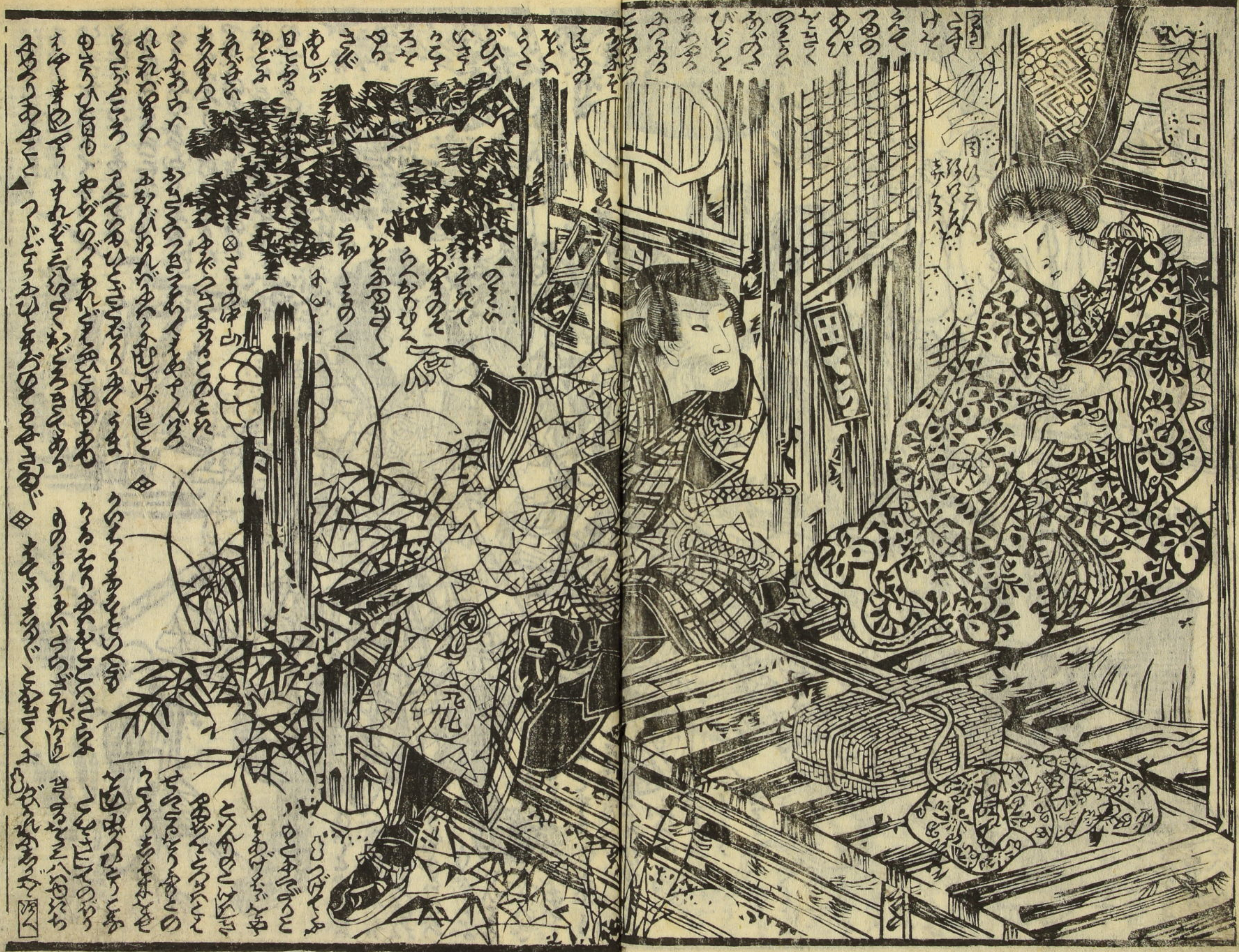


○此の繪の  
趣きい義弘  
御堂筑摩へ物語の  
條十四丁目へ入る  
區別の都合  
ゆたれバ  
引奉て  
茲に  
出せり



伊村  
幸四郎  
かつるおき  
さかひら  
三々四々





First page of the book





魯文作豐國画



明治三年庚午歲初春開版目錄

金華七變化

一編より 魯文作  
追出板 國貞画  
作者皇二世代の新案新工風  
彫刻小念を入古今の美々と  
徹る其の者官製を考境を好み

唐詩佐加那

初編より  
追出板 山之亭有人作

周防漆櫻模様

四編 有人作

梅春霞引始

三編 魯文作

濡衣女鳴神

十編 秀賀作

假枕巽八景

二編 魯文作

道外江戸名所

六編 續  
十編 廣景画

金 地本雙紙問屋 金松堂

横山町三丁目  
辻岡屋文助梓



